

Marcela Present's 徳島聖テモテ教会から愛をこめて

# も テモテ通信

Vol.11 2022 Autumn 号

お久しぶりです♡

猛暑にもほどがある！と感じた夏も終わりに近づいているようです。皆さま、ご無事にお過ごしでしょうか。

例年、日中はとても暑くても朝晩は眉山から山の風が吹いてきて、高原にいるかのように感じていたのですが、今年は朝から気温32度という日々で、暑さがニガテなわたしには、かなりきつかったです。

コロナ感染も落ち着くのかと思ったら第7波が来て、徳島でも1000人、2000人と爆発的に増えてしまいました。ちょうどお盆のころがピークでもあったので、2年ぶりに開催された阿波踊りも見に行かずじまいになってしまいました。

徳島に来て最初の年、台風により2日間だけ開催された阿波踊りを見に行きましたが、美しさと、活気に感動しました。普段、シャッター街になっている商店街にあふれるほどの人、人、人……。連の方たちは、こちらの会場からあちらの会場へと衣装のまま、楽器演奏の方は楽器を持ったまま移動されていて、その他に観客もあふれていて、その混沌とした熱気と活気は圧倒されるものがありました。

これらは2019年の写真です。



## 【平和と戦争】

先日、「ウクライナ現地レポート＋写真展」に行ってきました。香港人ジャーナリストがウクライナで撮影された写真の展示と、ギャラリートークがありました。トークのあと、個人的にもお話を伺うことができました。個人的にお話したとき最初に「大変ですね」と声をかけると、「いいえ、大変なのはウクライナにいる彼らであって、僕はそこから離れる事ができるので、大変ではないのです」と返事が返ってきました。

彼の写真は、「戦争の悲惨さ」だけが切り取られた感じがしません。ロシア軍によって爆撃された小麦の種の倉庫が焼け焦げている写真も、その建物の前にはこぼれた種から芽がでていました。腕を負傷した兵士がベッドに横たわりつつも、負傷した手を挙げて笑顔の写真もありました。メモには、『「あなたは平和と勝利、どちらを選びますか？」という質問に兵士は負傷した右手を挙げて「勝利！」と答えてくれました』とありました。

「平和」と「戦争」は反対語だと思っていました。「戦争がなければ平和が訪れる」と単純に考えていましたが、今のウクライナでは、「勝利」を選ばなければ、「平和」もあり得ないのです。「勝利」を放棄して「戦争のない状態」を選ぶと、そこにあるのは「平和」ではなく、「抑圧」だったり「不自由」だったりするのです。「戦争」を容認するわけでは決してありません。戦争は断固反対です。だからこそ、「勝利」を選ばなければならないウクライナの人々のために祈ります。

「祈りは行動が伴わなければ本当の祈りとは言えない」とどなたがおっしゃったのかは忘れてしまいましたが、印象深く心に残っています。Kaoruさんのこの写真展は、彼の「祈り」なのだと思います。彼はクリスチャンではないようですので、そんなことを本人は思っていないと思いますが、「覚えていること」「広く伝えること」は祈りの行動だと思います。



クレ・カオルさんと。

## 【三光教会】

7月25日から8月5日まで、徳島に来てから初めて日曜日を挟んだ夏休みをいただき、東京の実家の片付けに行ってきました。ほとんどの時間を片付けに費やし、どこにも遊びには行けませんでした。日曜日は母教会である三光教会の聖餐式に参列しました。

三光教会は、カトリック？と思わせるほど儀式的な礼拝をする教会です。

久しぶりに「よっこ」「よっこちゃん」に戻って礼拝に参加でき、嬉しかったです。



入堂。執事と司祭がいらっしやる。  
この日の説教は執事。



退堂。先頭のアコライトはお香を振っている。

## テモテ教会 より

### ☆信徒によるみ言葉の礼拝

5月の第1日曜日、み言葉の礼拝の司式はインマヌエル教会の脇田慎二さんがしてくださいました。しかし、わたしたちの教会の礼拝はわたしたちで！ということで、何回かの講習会を経て、8月の第1日曜日は長田洋子さんが、9月の第1日曜日は松崎久美子さんが司式をしてくださいました。

### ☆神戸教区宣教部「～つなごう元気のバトン～」撮影



8月に行われた神戸教区のオンライン中高生大会に、各教会がメッセージ動画を撮影しました。テモテ教会でも、7月10日の礼拝後、芳我先生や、徳島大学の留学生でエチオピア人のソリュスさんも一緒に撮影をしました。

### ☆墓参の祈り

古本正夫司祭の逝去記念日である8月17日、地蔵院隣にあるテモテ教会の墓地で、墓参の祈りを捧げてきました。今年は、元木園恵さん、宮田せんせえ、美樹の3人でした。



### ☆オンライン礼拝

9月18日の10時半の礼拝から、今までのビデオ会議システムからzoomに変更します。8時、18時と同じzoomです。

ミーティングID 864 7089 7046 パスコード 481359



zoom

### ☆「教会の今後を考える会(仮)」

牧師館の和室の東側窓枠から、雨が降ると雨漏りがしています。礼拝堂の排煙窓を取り替えた際に、コーキングの塗り直しもしていただいたのに、修まりませんでした。あとは、屋根や、壁の張り替え工事になるので大がかりなことになってしまいます。そうすると、牧師館の修繕にとどまらず、教会全体をどうするかを考えることになっていきます。

また、主要なメンバーがご病気になられたり、ご家族の介護があったりで教会に来られない現実があります。

では、わたしたちになにができるのか？教会の今後を考えていきたいと思えます。

まずは、10月第1日曜日の礼拝後、教会委員の長田洋子さん、三木亜佐子さんを中心に、少し時間をとって意見交換をする予定です。



こころのキズを掘り起こす

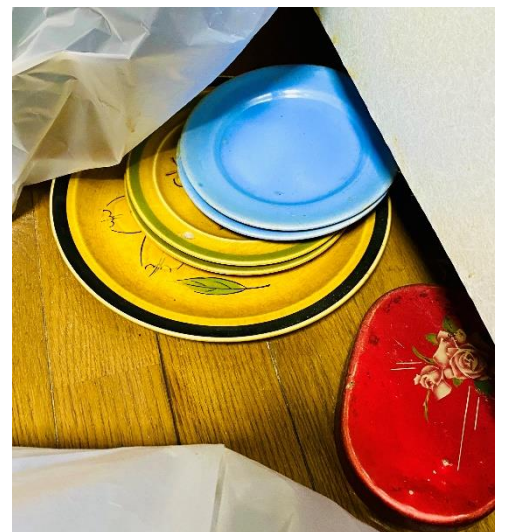
7月末に実家の大掃除をしました。施設に入居している母が一人で生活していた実家は、私たち子どもたちが住んでいたときから大量の物があふれている家でもありました。生活した状態のまま施設に入居し、そのまま家を放置してしまっていたので、今後のことを考えて大掃除をすることを決めました。私と妹と妻とときどき姪の4人で大掃除を始めました。実家は約40年ほど経っていますが、ほぼ40年分の物が大量にあふれかえっていました。足の踏み場もなく、実家に到着したその日は、あまりの惨状に急遽近くのホテルに宿泊しました。翌日から寝る場所の確保をしつつ、水回りを一通り掃除し、キャンプ用の簡易ベッドで寝られるように整えることが出来ました。

毎日毎日、過去のものと同じ向き合い、その都度あんな嫌なことがあったこんな嫌なことがあったと思い返しながらの作業は、つねに心が折れそうになりながらのつらい作業でした。

大量の食器を片付けていると幼少時によく使っていた重厚な平皿が出てきました。その平皿には、6枚切りのトーストが一枚だけのせられて、それを朝食として食べていた記憶がよみがえってきました。トースト以外に食べた記憶は思い出せません。妹にこの平皿を見せて「これで何を食べていたか覚えている？」と予備知識を与えずに尋ねました。妹は「トースト一枚だけ」と即答しました。「ほかには？」と尋ねても「いや、トースト」と。同じ記憶を共有していました。目玉焼きもゆで卵も、ハムもトマトも、牛乳も、おおよそ朝食とされているものを食べた記憶は共にありませんでした。

母子手帳も出てきました。定期検診時の記録が記されていました。3歳児検診時の虫歯の検査では、12本が虫歯で7本が処置済みとのこと。いまなら虐待を疑われます。

写真のフィルムや8mmフィルムも大量に出てきました。母が幼少の頃のモノクロフィルムも出てきました。これらはデジタルデータ化するサービスを利用して、デジタルデータ化しました。物心つく前の家族の写真や動画がいくつも出てきました。私の記憶にはない、笑顔の父や母の顔も見えます。愛された記憶がなく、つねに否定され、叩かれ、正座させられていた日々の記憶が、写真のその日の違う場面で存在していました。これらの写真を目にする度に、こころのキズが掘り起こされ、見えているものとの違いに息苦しくなる作業を続けています。



茶色のお皿にトーストが乗っていた

50歳になって半年、そろそろ「更年期」らしく、訳もなく気分が落ち込んだり、やる気が出なかつたり、疲れやすかつたり…。そのために、この通信を出すのも、時間がかかってしまいました。

基本、怠け者ですが、ますます怠け癖が出ているので、「ちゃんとしなくちゃ」と、これまたボンヤリ考えています…。